令和8年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(水)提出　■10月1日(木)提出　□3月12日(金)提出

学校番号	18	高知追手前高等学校吾北分校	課程	全

高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	地域と協働して地元の資源を生かした特色ある教育活動を展開し、学校の垣根を超えて学びを深化させることにより、地域社会を担う人材を育成します 仁淀川流域の自然資源を生かした地域・体験学習や伝統芸能の継承等を通して、他者と協働する力を養い、地域社会に貢献する人材を育成します
スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○自己の能力を伸ばそうとする意欲のある生徒 ○教科の学習や実習等に真面目に取り組む生徒 ○思いやりがあり、主体的に考え行動できる生徒 ○学校行事・部活動・生徒会活動等に積極的に参加する生徒 ○自己の進路について真剣に考え、将来、地域や社会に役立つ人間になろうとする生徒 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○目標に向かって努力する力を育成します ○他者と協力・協働し課題を解決する力を育成します ○地域に根ざした活動を通して社会に貢献できる力を育成します		【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○小規模校の特性を生かし、きめ細かな指導により、一人ひとりを尊重した授業を展開します ○将来を見据え、自己理解を深めるためのインターンシップや地域の伝統産業である土佐和紙や郷土芸能である清流太鼓を題材とした探究学習に取り組みます ○本校との遠隔授業や県教育センター遠隔授業配信センターからの遠隔補習を設定しています

学校関係者評価

【学力の向上】　評価　【　　】

【社会性の育成】　評価　【　　】

【チーム学校】　評価　【　　】

(評価)A:目標を十分に達成　B:目標をほぼ達成　C:やや不十分　D:不十分

		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容 【D】	中間評価 【C】		中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価 【C】	見直しのポイント【A】
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	①C層以上の生徒の増加 ・1年:R8.4月**16.7**%→R8.11月**33.3**% ・2年:R7.4月**16.7**%→R8.11月**23.1**% ②「授業外学習をほとんどしない」:**10%以下**(R7:13.3%) ③「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」:**100%**(R7:96.7%) ④3年生進路決定率:**100%**(R7:100%)	・研修の充実をはかり、ICT機器を授業内で効果的に活用 ・月曜日放課後補習(英・数・国・理・社・情報) ・課題テスト、学力向上テスト(漢字) ・遠隔補習(進学・公務員) ・3年生の小論文・面接対策(全教員で徹底指導)	C	①1年:R8.4月16.7% 2年:R7.4月16.7% →R7.11月23.1% → R8. 4月15.4% ②25% ③100% ④目標達成に向けて臨んでいる	・年間4回のICT研修を実施(AIの効果的活用) ・月曜日放課後補習の継続 ・学力向上テストの事後指導徹底 ・遠隔補習を実施 ・授業デザインプロジェクトリーダーを中心に教科横断的授業の展開と授業改善 ・全教員で小論文・面接等指導を徹底		
	社会性の育成	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	①進路選択力や目標設定力を高め、進路実現:**100%**(R7:100%) ②インターンシップにおける主体的な取組:**100%**(R7:95.7%) ③地域のボランティア活動参加率:**100%**(R7:100%)	・進学ガイダンス、キャリアデザイン発表、キャリア教育講演会、対話型企業説明会、外部講師による面接マナー指導等 ・地元企業と連携したインターンシップ ・地域に貢献できるボランティア活動	B	①96% ②10月27日～29日実施予定 ③100%	・キャリアデザイン発表、キャリア教育講演会、対話型企業説明会を開催し、進路目標の明確化と、コミュニケーション力の向上につなげる ・3日間のインターンシップ実施 ・ボランティア活動への参加を通して地域貢献		
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	①「合同運動祭、文化発表会、中高交流田植え、稲刈りは、地域の活性化及び貢献につながっている」:**98%以上**(R7:97%) ②「学校や子どもたちの課題をオープンにし、保護者や校友会、地域住民と協力して解決できている」:**95%以上**(R7:92%) ③総探(地域学習)に対する肯定的回答:**97%以上**(R7:97%) ④地域との連携;**10回以上**(R7:10回以上)	・連携行事(小中高合同運動祭、文化発表会、中高合同田植え・稲刈り、小高連携授業、認定こども園との交流) ・吾北給食センターとの連携事業 ・地域の支援員を活用した土佐和紙、清流太鼓の学習 ・地域課題解決の探究学習	B	①1月集計予定 (中高交流田植えは6月11日実施) ②1月集計予定 ③1月集計予定 ④10回以上目標達成	・連携行事(小中高合同運動祭、文化発表会、中高合同稲刈り、小高連携授業、認定こども園との交流) ・吾北給食センターとの連携 ・11月総探地域学の成果発表 ・地域と連携した学びを通して、生涯にわたって学ぶことができる環境づくりに努める		
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	①「学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、話し合ったり、発表したりする機会がある」:**100%**(R7:100%) ②「テレビのニュース、新聞、ウェブサイトやSNS等を通じて、地域や社会の出来事に関する情報を得ている」:**90%**(R7:83%) ③「高校入学以降の学習によって、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があった」:**90%**(R7:86.6%)	・地域協働学習を通して、各教科との相互作用を実感できる授業づくり ・土佐和紙の歴史(地歴公民)、活用(地歴公民、国語)、加工(理科、家庭科)を教科横断的に学習 ・清流太鼓の歴史(地歴公民)、演奏(体育、芸術)を教科横断的に学習 ・ICTを活用したプレゼン技術の向上(情報)	A	①100% ②96% ③100%	・土佐和紙の歴史(地歴公民)、活用(地歴公民、国語)、加工(理科、家庭科)を教科横断的に学習 ・清流太鼓の歴史(地歴公民)、演奏(体育、芸術)を教科横断的に学習 ・文化発表会ではICTを活用したプレゼンを実施(情報)		

		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容 【D】	中間評価 【C】		中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価 【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化・特色化 ○PRしていく学校の魅力づくり ○小学校から連続する部活動による地域活性化 ○情報発信 ○学校寮移転計画の継続	①校内情報共有会:**複数回**(R7:なし) ②地域コンソーシアム会議:**年間5回以上**(R7:5回) ③地域住民とのワーキング:**年間4回以上**(R7:なし) ④吾北中学校からの進学率:**50%以上**(R7:55.5%) ⑤R9年度入学生:**11名以上**(R8年度入学生:6名) ⑥学校運営協議会:**年間2回**(R7:2回)	・教職員一丸となり学校の魅力化推進を協議 ・前年度までの「いの町中山間地域教育魅力化構想策定委員会」を「地域コンソーシアム会議」と位置づける ・少人数でのワーキングを実施し、地域住民のニーズを把握 ・HPの刷新、SNSでの魅力発信 ・地元の小、中学校との更なる連携	B	①2回(4月・6月) ②1回(9月) ③2回(6月・7月) ④目標達成を目指し中高交流を深めている ⑤目標達成を目指し魅力化およびPR活動の推進に努めている ⑥1回(7月)	・校内での情報共有会 ・「地域コンソーシアム会議」にて学校ビジョンを地域と共有 ・地域コーディネーターの採用要望 ・ワーキングを継続的に実施し、地域住民と学校の距離を縮める ・SNSでの魅力発信準備 ・地元の小、中学校との更なる連携		
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	①不祥事事案:**0件**(R7:0件) ②不祥事防止委員会の実施:**年間3回**(R7:6回) ③校内研修の実施:**年間5回**(R7:8回)	・心配事、不平、不満をため込まない風通しの良い職場環境づくり ・適切なテーマを持った校内研修 ・不祥事ゼロに向け、学校長と連絡を密にし、定期的に校内研修を実施 ・情報共有、危機管理の徹底	B	①0件 ②5回 ③12回	・心配事、不平、不満をため込まない風通しの良い職場環境維持 ・適切なテーマを持った校内研修 ・不祥事ゼロに向け定期的に不祥事防止研修を実施 ・情報共有、危機管理の徹底		
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ★働きがい・働きやすさ ○業務の助け合い ○年休等休暇の取りやすいサポート体制の整った職場環境 ○効率の良い働き方の推進	①月45時間超:**月平均0.5人以下**(R7:月平均0.6人) ②「教職員が協力し合って学校運営に当たっている」:**100%**(R7:95%) ③定期考査中の年休取得率:**25%以上**(R7:18.5%) ④「夏の勤務セレクト」利用率:**25%以上**(R7:25%) ⑤「職場の人たちは頼りになる」:**70%以上**(R7:なし) ⑥「仕事に満足」:**70%以上**(R7:なし)	・健康状態確認等を的確に行う ・声がけと業務の相互サポート ・休暇の取りやすい雰囲気作り ・各教職員がICT研修等に積極的に参加し、業務改善に努める	B	①月平均0.5人 ②1月集計予定 ③23% ④33% ⑤1月集計予定 ⑥1月集計予定	・健康状態確認等を的確に行う ・声がけと業務の相互サポート ・休暇の取りやすい雰囲気作り ・各教職員がICT研修等に積極的に参加し、業務改善に努める ・ビジョンの明確化と各業務の意義の言語化に努める		